

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・信頼を築く
- ・技を磨き、伝える
- ・夢をいだき、挑戦する

企業行動5つの誓い

- 法令遵守 ▶ その行為は**法律に違反していないか**
- 企業倫理 ▶ その行為は**企業理念や倫理に違反していないか**
- 社会常識 ▶ その行為は**社会の常識か**
- 社会の目 ▶ その行為は**社会の目、安心、安全にそむいていないか**
- 自分の心 ▶ その行為は**間違いないか、自分の心に問いかける**

(2015年現在)

社 名：株式会社 NIPPO

英 文 社 名：NIPPO CORPORATION

設 立：1934年(昭和9年)2月

本社所在地：〒103-0028
東京都中央区八重洲1-2-16 TGビルディング
TEL 03-3563-6751(代表)

代 表 者：代表取締役社長 岩田 裕美

資 本 金：15,324百万円

事 業 内 容：建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
開発事業およびその他の事業

従 業 員 数：1,709名(男性1,622名、女性87名)※2015年3月31日現在

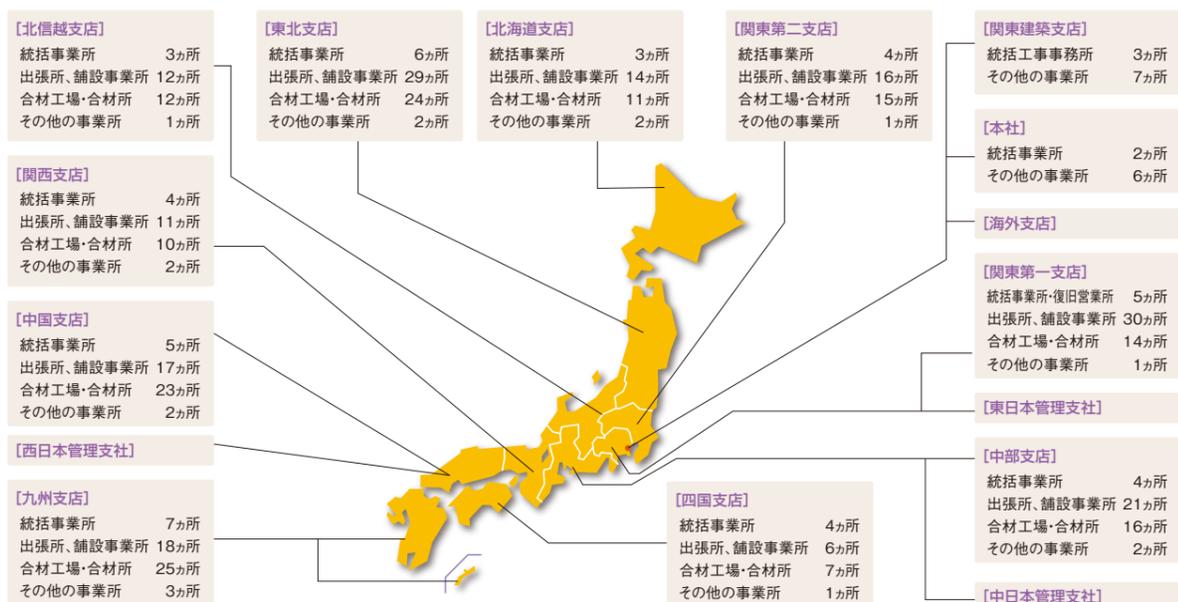
ホームページ：http://www.nippo-c.co.jp/

株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業としています。

舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシングコース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほかの舗装工事業者にも販売しています。

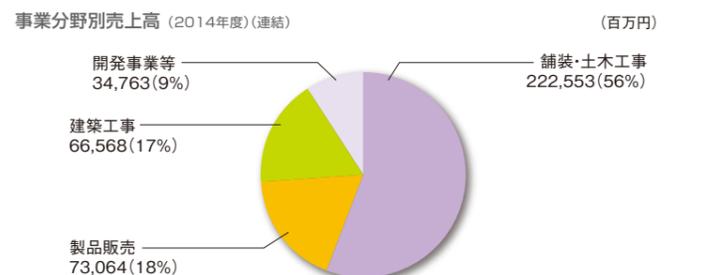
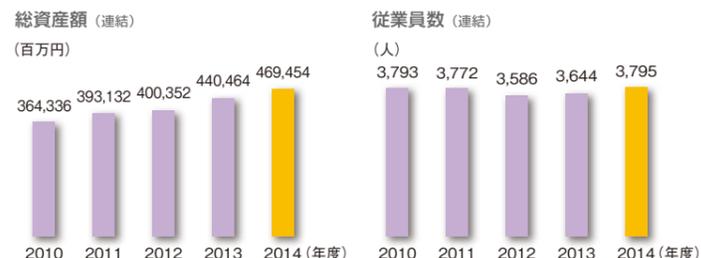
このほか、オフィスビルや工場等の建築工事、都市型マンションの分譲や市街地再開発等の開発(不動産)事業、土壌浄化事業、海外事業といった戦略事業を取り込み、事業基盤を強化しています。

事業所一覧 (2015年4月1日現在)



CSR活動への取り組み

- 1934 日本石油(株)道路部と浅野物産(株)道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
- 1993 企業行動倫理委員会設置
- 1994 環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置
企業理念・行動指針制定
- 1995 シンボルマーク改訂
- 1998 環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
- 2003 日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更
法令遵守(コンプライアンス)体制構築
- 2004 環境報告書創刊
- 2005 CSR体制構築
- 2006 企業理念・行動指針改訂
- 2007 CSRLレポート創刊
- 2009 「株式会社NIPPO」に商号変更
- 2012 プラントエンジニアリング部門を「JXエンジニアリング株式会社」に会社分割



CONTENTS

- 会社概要 1
- トップメッセージ 3
- NIPPOの事業 5
- マネジメント報告
 - コーポレート・ガバナンス 7
 - CSRマネジメント 8
 - コンプライアンスと品質保証体制 9
- 環境・安全報告
 - 安全管理 10
 - 環境マネジメントシステム 11
 - 舗装事業における環境保全活動 13
 - 舗装事業における環境技術 15
 - 戦略事業における環境・安全配慮 17
- 社会性報告
 - お客様の信頼を得るために 19
 - 従業員とのかかわり 20
 - 社会とのコミュニケーション 21
- 読者の声を受けて 23
- 第三者意見 26

編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済、環境、社会とのかかわりについて、多くの方々を知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社と関わる多くの方々とのコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思ひます。

対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・統括工事事務所・復旧営業所50カ所、現業事業所361カ所(海外を除く)。

対象期間：2014年度
(2014年4月1日から2015年3月31日)
一部には、時期を明示した上で2014年度以前の情報と2015年9月までの最新情報を掲載しています。

この道の先に

—私たちNIPPOは豊かな社会の実現に向け 常に時代の一步「先」をいく企業として 歩んでまいります

株式会社 NIPPO
代表取締役社長 岩田裕美

人の命を守る

2014年度、当社は4年ぶりに死亡災害ゼロを実現しました。「人の命を守る」これは、企業がまず果たすべき根源的な社会的責任です。死亡災害ゼロを継続的に達成し、NIPPOが社会的責任を果たしていくためには三現主義（現地・現物・現実を直接見て把握すること）と当事者意識を基本とし、「安全作業4つの誓い」を確実に実践することしかありません。

- ①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
- ②土砂崩壊「土留めの確認」
- ③転落・墜落「安全帯の確認」
- ④非定常時作業「装置停止の確認」

ルールと決めたことを確実に守り、守らせることを愚直に実践してまいります。

確かなものづくり

企業理念にある「確かなものづくり」は、法令を守り、安全に、環境保全に配慮し、お客様が満足するものをつくり上げて初めて成り立ちます。

そして、この「確かなものづくり」を成し遂げていくのは人です。いかに、IT技術が進歩し、省力化が進もうとも、最終的に判断し、仕事をまとめて上げるのは人なのです。ものづくりとしての建設業の担い手不足が叫ばれ始めて久しいですが、当社が置

かれている状況もまさに同じで、現場最前線で働く技能員や技術職員などの現業部門とそれをサポートする管理・営業等の間接部門の人材の確保と育成が喫緊の課題です。「ものづくり」は「人づくり」の基本理念のもと、当社では、従業員の現場力・CSR意識を高める各レベルごとの育成研修に注力するとともに、CSRを受身ではなく、能動的に実践する企業風土を目指して、仕組みづくりに取り組んでまいります。

環境技術への取り組み

当社では「確かなものづくり」の一つとして、環境に関わる技術開発に取り組んでおります。NIPPOは、1970年代より「アスファルト舗装のリサイクル技術」の研究開発に取り組み、その後も廃ガラス、ゴミ熔融スラグなど他産業副産物を舗装材料として有効活用する技術など、資源循環型社会の構築に向けた研究開発を推進しています。

また、低炭素社会に対応する技術として、アスファルト舗装の中温化技術のほか、材料製造時の二酸化炭素排出量を抑えた低炭素型半たわみ性舗装材の商品化、並びにタイヤの転がり抵抗を低減し、車の燃費向上につながるアスファルト舗装の開発を進めています。

NIPPOが他社に先駆けて開発、実用化したヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催へ向け、特に注目されている環境配慮型舗

NIPPOは、昨年創業80周年を迎えました。そして、新たな1年をスタートするにあたり、コーポレートスローガンを制定しました。

『この道の先に』

企業理念である「確かなものづくりを通して、豊かな社会の実現に貢献する」会社として、未来へ向かう姿勢と希望を託したメッセージです。私たちNIPPOは、これからも豊かな社会の実現に向け、常に時代の一步「先」をいく企業として歩んでまいります。

装技術です。これからもNIPPOは常に一步「先」の環境技術に取り組んでいきます。

地域社会とのかかわり

NIPPOは建設業界の中でも、トップグループの全国の事業所ネットワークを持っております。この事業所ネットワークを活用し、自然災害時の緊急復旧活動に対応するとともに各地域に根ざした清掃活動、学校グラウンドの整備活動、「道づくり」の出前授業など、各地域の従業員発案の身近な社会貢献活動に取り組んでおります。

さらに、全社としては、アスファルト合材の出荷量に合わせたNPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付、JXグループの一員として「童話の花束」への参加などの社会貢献活動のほか、2015年、プロコンチネンタルチームにランクアップし、日本を代表する自転車ロードレースチームとなった「Team NIPPO」やマスコットキャラクター「ミッチーくん」を通して、「道づくり」および「道づくり企業」のPR活動を行っております。

このたび、「CSRレポート2015」に当社の活動をまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。皆様のご理解とご支援、忌憚の無いご意見を賜りますようお願い申し上げます。



NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会の様々な場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

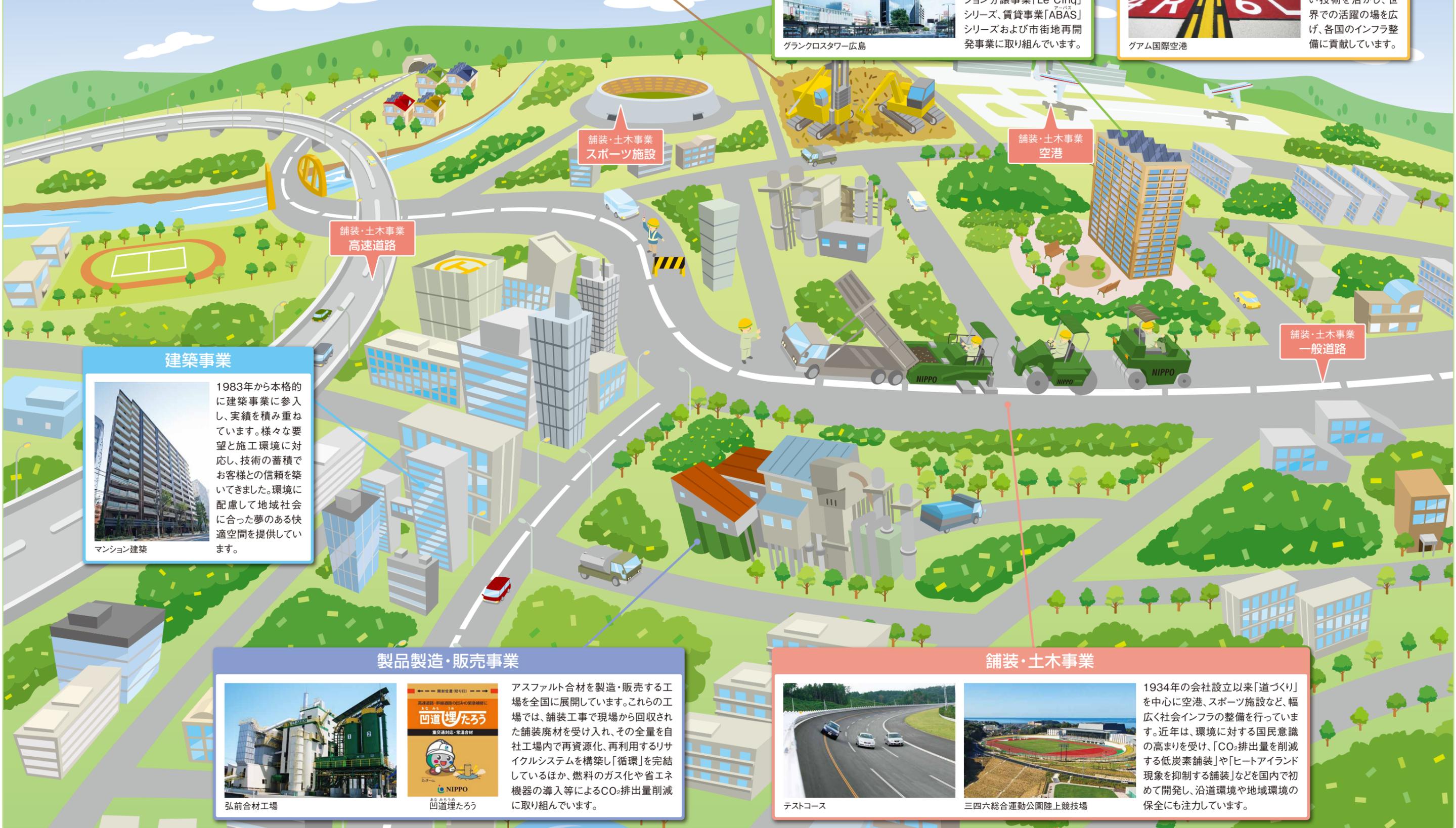
事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

開発(不動産)事業

環境と安全に配慮し、永く安心できる住環境の提供を柱とした不動産事業を展開しています。「環境重視」・「安全性の高い商品企画」・「資産価値の高い街づくり」をコンセプトとし、全国の主要都市において、マンション分譲事業「Le Cinq」シリーズ、賃貸事業「ABAS」シリーズおよび市街地再開発事業に取り組んでいます。

海外事業

中国やインド、東南アジア諸国を中心としたテストコースの建設、アフリカ諸国を中心とした、日本の政府開発援助(ODA)による道路整備事業への参画など、当社の高い技術を活かし、世界での活躍の場を広げ、各国のインフラ整備に貢献しています。



建築事業



マンション建築

1983年から本格的に建築事業に参入し、実績を積み重ねています。様々な要望と施工環境に対応し、技術の蓄積でお客様との信頼を築いてきました。環境に配慮して地域社会に合った夢のある快適空間を提供しています。

舗装・土木事業
スポーツ施設

舗装・土木事業
空港

舗装・土木事業
高速道路

舗装・土木事業
一般道路

製品製造・販売事業



弘前合材工場



凹道埋たろう

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO₂排出量削減に取り組んでいます。

舗装・土木事業



テストコース



三四六総合運動公園陸上競技場

1934年の会社設立以来「道づくり」を中心に空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO₂排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。